

小テストを用いたオンライン英語学習促進の実践

高橋 有加

広島大学外国語教育研究センター

1. はじめに

英語を学ぶ上で語彙の学習は大きな役割を果たしている。しかしながら、Nation (2001) でも述べられている通り、授業という限られた時間の中で語彙を学習することは効率的ではない。特に、外国語として英語を学ぶ場合には、授業の時間が言語学習の中心となることが多いため、Webb and Nation (2017) が指摘する通り、授業外での語彙学習機会を担保し、その学習を促進するために、授業内でテストを行ったり、明示的な語彙学習方法の指導を行うことが効率的な英語学習に繋がると考えられる。

著者は、これまで授業外での語彙学習を促進するために、オンライン語彙学習教材を援用した授業において、どのような学習指示が効果的であるかを調査した(森田・高橋, in press)。オンライン語彙教材を使うように推奨した群、期日までに指定の範囲を終わらせるように指示を出した群、そして、毎回の授業で小テストを課した群の3つを比較した。結果として、小テスト群では、毎回の授業で行う小テストに合わせてオンライン学習が進み、事前事後のテストにおいても、その他の群よりもより得点が伸び、より効果があることが分かった。しかし、森田・高橋(in press)では3群間の比較に主眼を置いて報告をしたため、小テスト群がどのようにオンライン学習教材を用いたのか、そして、教材及び小テストをどのように受け止めたのかについては触れなかった。本報告では、小テスト群に行った実践内容を報告するとともに、オンライン学習の学習行動及び事後アンケートの回答を報告する。これにより、小テストを課すことで授業外でのオンライン学習を促進する試みの利点及び改善点を示し、今後の実践に資することを目的とする。

2. 実践の背景と目的

広島大学では、学生の英語力強化のためにオンライン英語学習教材である ALC NetAcademy NEXT を導入しており、学生たちは個人で任意登録または教員がクラス単位で学生を一括して学生を登録することにより、必携化 PC やスマートフォンなどを使って学内外から無料で学習できるようになっている。森田・高橋(in press)では、大学1年生対象の必修のリーディング授業に、このオンライン教材から英語語彙学習を中心とした「英単語パワーアップコース TOEIC® テスト編」の中級コース(以下、中級コース)を導入し、3つのクラスにそれぞれ異なる指示をし、オンライン教材へのアクセス傾向など学習行動を分析した。3つのクラスへの指示は以下の通りである。

- 1). 推奨群：初回授業で学生と一緒にオンライン教材のデモンストレーションをしながら良い教材であることを示したが、使用を推薦するにとどめ、成績には含めなかった群。
- 2). 範囲指定群：毎回の授業前までに完了すべきオンライン教材の範囲を指定し自学自習することを義務化し、その達成率を成績の10%分とし、授業内での小テストは行わなかった群。

- 3). 小テスト群：毎回の授業前までに完了すべき範囲を指定し、その範囲の小テストを毎回の授業開始時に行い、成績の25%分とした群。

これらの各群に事前事後の語彙テストを課し、その結果を分析した結果、小テスト群が他の群よりもより得点が伸びていた。各群の学習行動の分析から、推奨群ではほとんど学習が行われなかったが、範囲指定群と小テスト群では最終的には同程度の学習が行われたことが分かった。しかし、タームの終盤に締め切りが設定されていた範囲指定群では、締め切り間際まで学習を行わない学習者が多数いたのに対して、小テスト群は毎回の授業で行う小テストがペースメーカーとなり、定期的な学習が行われていることが分かった。この定期的な学習が語彙テストでの伸長に繋がったと考えられる。

森田・高橋 (in press) では、異なる指示を与えた群での比較に焦点を当てたが、それぞれの群で学習者が、オンライン教材や小テストなどに対してどのような感想を得たのかについては詳細を報告していない。特に語彙力に伸長が見られた小テスト群について、受講生が実践内容についてどのような受け止めをしたのかを明らかにすることで、小テストを用いた授業外でのオンライン学習についての利点や改善点が明らかになるものとする。本研究では、小テスト群に行った実践内容を報告するとともに、オンライン学習における学習行動及び最終授業回に行ったオンライン教材と小テストに関するアンケートの結果を報告する。

2.1 小テスト群に関する実践の概要

2.1.1 分析対象者

大学1年生対象の必修のリーディングの授業に履修登録した学生を対象とした。分析対象としたのは、事前事後テストを受け、また、最終回のアンケートに回答した受講生とした。また、本実践は、第1タームと第2タームの2つのタームで異なるクラスに対して行ったため、第1ターム49人、第2ターム44人の計93人が分析対象となった。

2.1.2 使用したオンライン教材の詳細

オンライン教材として用いた中級コースは学習開始時のレベルとしてTOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC) 500点程度を想定しており、今回の参加者グループに適したレベルであると判断した。この教材では、1つのユニットで8個の単語を学習することになっており、5つの異なるステップで繰り返し同じ単語を学習する仕組みになっている。

Step 1の「語彙フラッシュカード」では、英単語とその日本語訳が交互に示されるのをみて学習する。英語が表示される時には自動的にその発音流れる。全ての語が表示された後、「NEXT STEP」というボタンが現れ、そのボタンを押すまで繰り返し英単語と日本語が交互に提示される。

Step 2の「日英・英日語彙ドリル」では、英単語が1つ示されたら2つの日本語訳から正しいものを選び、日本語が1つ示されたら2つの英単語から合うものを選択する。どちらの場合であっても、答えを選んだ時に正答となる英単語が発音される。正解不正解は瞬時に○×で確認できる。8個の単語の日→英、英→日が最低1回ずつ表示されるようになっており、間違えると正解するまで問題が繰り返し表示される。Step 2が終わると、どの単語の日→英、英→日の問題を何回行ったのかが一覧で表示され、間違いの多かった問題を確認することができる。また、それぞ

れの単語に音声ボタンがついており、発音を確認することができる。

Step 3の「サウンドマッチ」では、1から8までの再生ボタンを押して聞こえてくる英単語の意味として最も適切なものを4つの日本語から選択する。「ANSWER」ボタンを押すと、採点がされ答えの一覧を確認することができる。

Step 4の「1文1空所穴埋め問題」では、例文の空所に当てはまる単語を4つの選択肢から選ぶ。最後のStep 5の「語彙ドリル」では、8つの単語が学習されたかを確認するために、Step 1と同様のフラッシュカード形式で、表示される英単語の意味として適切なものを2つの日本語から5秒以内を選ぶ。また、Step 2と同様に、結果が一覧で表示され、どの単語を間違いやすかったかが確認できる。

Step 1から5までは、順番を変えたりステップを飛ばしたりできない仕組みになっており、強制的に複数回同じ単語に触れることができるようになってきている。Step 5まで完了すると、そのユニットに「修了」と表示され、学習が完了したことを学生と教員の両方が確認することができる。各ユニットのStep 5まで修了すると、Step 5の答えの画面に「PRINT OUT」ボタンが現れ、Step 4で出題された空所補充問題の例文の一覧が印刷できるようになる。また、4ユニットごとに「確認テスト」があり、そこまでに学習した内容を振り返ることができるようになってきている。その他には、Step 5で2回以上間違えた単語は「ブラックリスト」に登録されるようになっており、ブラックリストに登録された単語で構成されたフラッシュカードに正解することで、登録を解除することができるといった機能もついている。

2.1.3 授業の進め方と小テストの内容

表1に示す通り、リーディングの授業は週2回火曜日と金曜日に行われ、各ターム全16回の授業で構成される。第1回、第8回、第16回はオリエンテーションや中間・期末テストが行われたため小テストは行わず、それらを除いた13回の授業開始時に「ALC 語彙テスト」と称した小テストを行った。範囲は4ユニット分(32単語)とし、4ユニットごとにある「確認テスト」まで終わらせたうえで毎授業に出席するよう指示した。13回の小テストを行ったので、52ユニットまで計416個の単語が対象となった。

実際に授業内で用いた教材はこのオンライン単語学習教材だけではなく、教科書を使用し、毎回1ユニットずつ進めた。本報告の対象には含んでいないが、教科書に出てきた単語や文法に関しても毎回小テストを行った。それぞれのテストは、教科書テスト25%、ALC 語彙テスト25%、中間テスト20%、期末テスト30%として成績評価を行った。

表1 第1ターム及び第2タームの授業の進め方

	第1ターム日程	第2ターム日程	教科書ユニット	教科書テスト範囲	ALC 語彙テスト範囲
1	4/9 (火)	6/11 (火)		授業の説明 / 実力診断テスト	
2	4/12 (金)	6/14 (金)	Unit 1	--	U001-004
3	4/16 (火)	6/18 (火)	Unit 2	Unit 1	U005-008
4	4/19 (金)	6/21 (金)	Unit 3	Unit 2	U009-012
5	4/23 (火)	6/25 (火)	Unit 4	Unit 3	U013-016
6	4/26 (金)	6/28 (金)	Unit 5	Unit 4	U017-020
7	5/7 (火)	7/2 (火)	Unit 6	Unit 5	U021-024
8	5/10 (金)	7/5 (金)		中間テスト	
9	5/14 (火)	7/9 (火)	Unit 7	--	U025-028
10	5/17 (金)	7/12 (金)	Unit 9	Unit 7	U029-032
11	5/21 (火)	7/16 (火)	Unit 10	Unit 9	U033-036
12	5/24 (金)	7/19 (金)	Unit 11	Unit 10	U037-040
13	5/28 (火)	7/23 (火)	Unit 12	Unit 11	U041-044
14	5/31 (金)	7/26 (金)	Unit 13	Unit 12	U045-048
15	6/4 (火)	7/30 (火)	Unit 14	Unit 13	U049-052
16	6/7 (金)	8/2 (金)		期末試験 / 実力診断テスト	

2.1.4 小テスト (ALC 語彙テスト)

小テストはオンライン教材の Step 4 で出題された選択式空所補充問題の例文を使用し、空欄に単語を正しく書く形式とした。出題範囲となる4ユニット分の32個の単語から、ランダムに12個を抽出して出題し、12点満点のテストとした。その際、単語の最初の一文字を提示した。これは、ヒントでもあり、また、正解を限定するためである。三人称単数、過去形、複数形など、単語の形が変わるものに関しても、例文の通りに正確に書くこととし、その他の解答は認めないことにした。3.2節において述べた通り、学生は各ユニットを完了すると Step 4 で出題された例文を印刷できるようになっているため、それらを参考につづりを書く練習をすることができる。テストは5分間で行われ、テスト終了後すぐに相互採点することで点数と間違えた箇所をすぐに確認できるようにした。

- (1) He has had (a) from five universities.
彼は5つの大学から合格通知をもらった。

(1)

3. 実践の結果

図1は、93名の各ユニット(ユニット001-052)へのアクセス回数をグラフ化したものである。ユニット1は、他のユニットよりアクセス回数が高くなっているが、これは初回の授業内で各学生がデモンストレーションとして実際にログインして使ったことや、その後使い方に慣れるために複数回ログインしたためと考えられる。ユニットが進むにつれ、慣れが影響したためか、前半のユニット001から020までのアクセス数は緩やかに降下している。また、部分的にアクセス数が低くなっている箇所が2箇所ある。1つ目は、第1タームのゴールデンウィーク明けの5月7日にテストがあったユニット021-024、2つ目は第2タームにおいて3連休で休みとなった月曜日の授業がその週の水曜日に振り替えられるというイレギュラーがあった週の金曜日にテストが行われたユニット037-040である。このことから、通常の日程であれば授業前に学生が教材にアクセスする曜日やタイミングがある程度固定されていたことや、日程に変化があるとアクセス数にも影響が出ることがわかった。

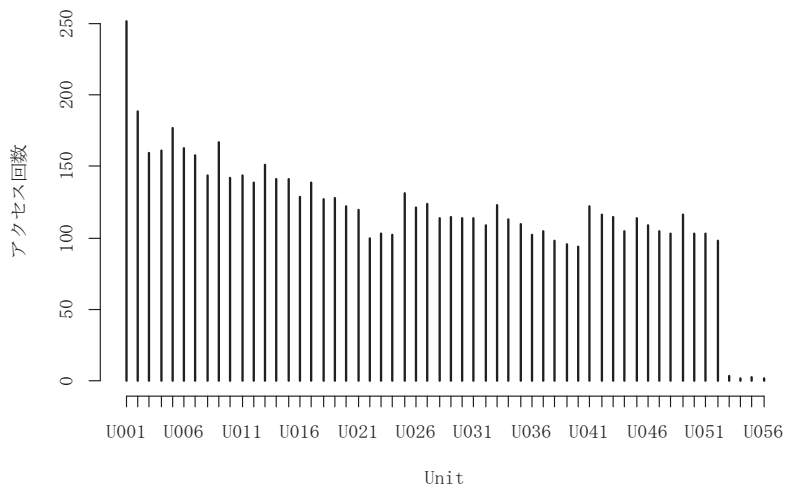


図1 各ユニットへのアクセス回数

図2は、オンライン教材へのアクセス頻度と人数を示している。小テストの出題範囲として扱ったユニットは052までだったため、アクセス数も50回から65回周辺に人数が集中していることがわかる。今回はユニット052までを小テストの範囲としたが、中級コースはユニット140まであるため、少数ではあるが自主的に範囲外のユニット060台まで修了している学生も見られた。100回以上アクセスしている学生も見られるが、範囲外のユニットを修了したためではなく、ユニット052周辺までの教材に複数回アクセスした結果であった。

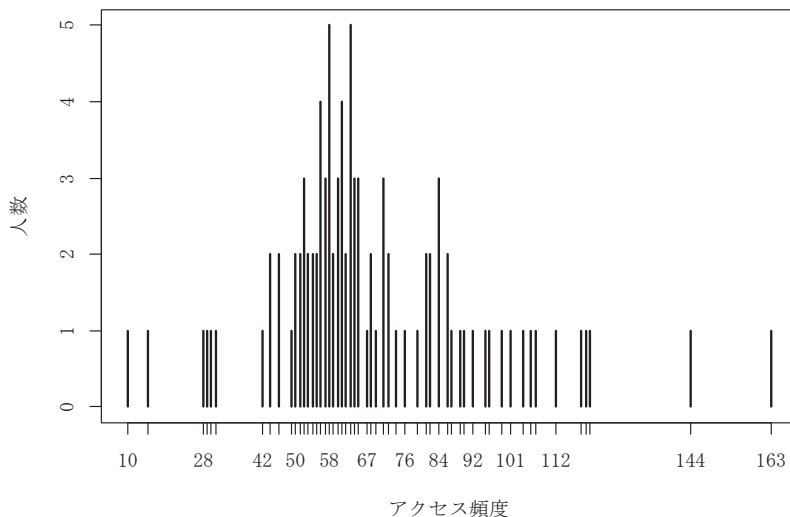


図2 アクセスの頻度

図3は小テストの結果を箱ひげ図として表したものである。各回の平均点は黒い菱形で示している。平均点は9点から10点となっており、全体的によくできていたといえる。また、12点満点のテストで、満点を取る学生も多かった。

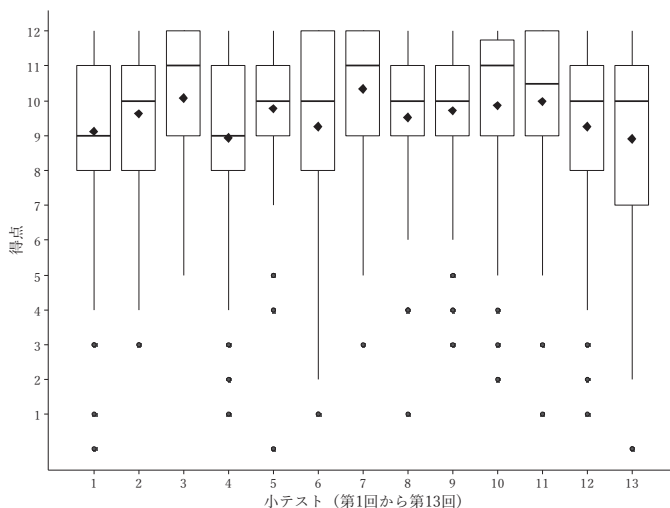


図3 小テストの得点の推移

図4は各ユニットの学習時間の箱ひげ図である。中央値は250秒(4分16秒)から300秒(5分)程度となっている。外れ値となっている参加者は600秒(10分)から1000秒(16分6秒)ほどの間アクセスしていることがわかる。これらはあくまでオンライン教材にアクセスしていた時間の長さを示しているため、実際はこの後さらに書いて練習をする時間を取っていた参加者も多いと考えられる。

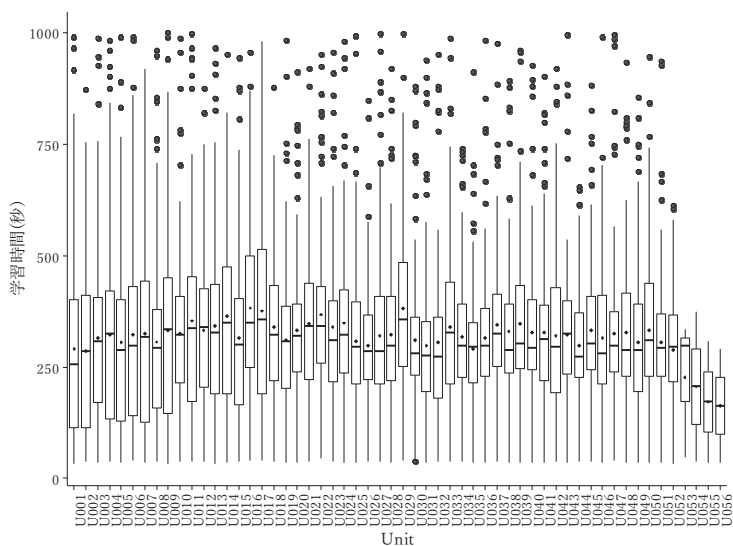


図4 各ユニットの学習時間

4. アンケートの結果と考察

第16回の授業時に行ったアンケートから、オンライン単語学習教材と小テストに関連する質問項目を抜粋し、報告する。対象はアンケートに答えた93名の学生の回答である。

4.1 教材に関する質問項目

まず、オンライン単語学習教材についてのアンケートの結果について報告する。質問内の【英単語コース】は本実践で用いた中級コースを表している。質問項目は以下の2つである。

Q1: 【英単語コース】はどの程度、単語力向上に役立ったと思いますか。

Q2: 【英単語コース】で学習した単語のレベルについてどう思いますか。

図5は、それぞれの質問項目に対する学生の回答結果を選択肢ごとに%で表したものである。1から5までの5段階から1つ選択する形式となっている。それぞれの数値の意味は、以下で詳述する。

Q1の回答は、「4. 役立った」が56%で最も多く、「5. とても役立った」が28%という結果となり、合わせて84%の学生が役立ったと回答した。このことから、多くの学生がこの教材を通して単語力が身についたと感じていることがうかがえる。また、「3. どちらとも言えない」が13%、「2. ほとんど役に立たなかった」が3%ほどいたが、「1. 全く役に立たなかった」と回答した学生はいなかった。

Q2の教材内の単語のレベルに関する質問に関しては、「3. ちょうどいい」と答えた学生が57%で最も多く、「2. やや簡単」が22%、「4. やや難しい」が18%、「1. 簡単」が3%であった。「5. 難しい」と答えた学生はいなかった。このオンライン教材の中級コースはTOEIC 500点を開始時の目安をしており、受講生の平均的なTOEICの得点に近いことや、週2回、2、3日おきに継続的に行われる小テストである上に、書いて答えなければならないことを考慮すると、参加者のレベルに合っていたと考えられる。

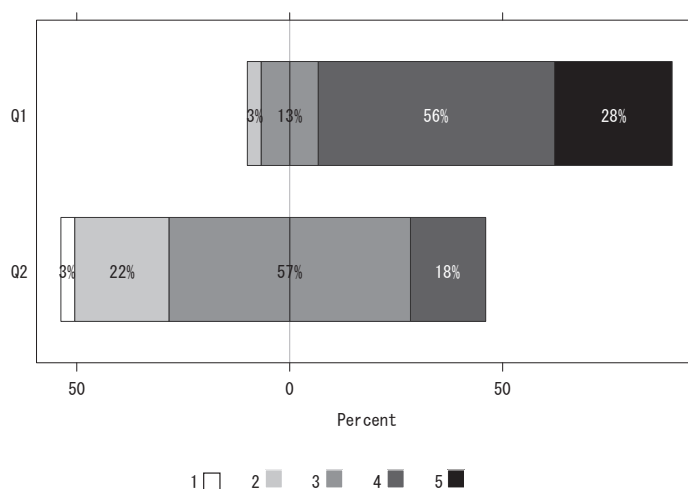


図5 オンライン教材に関するアンケート結果

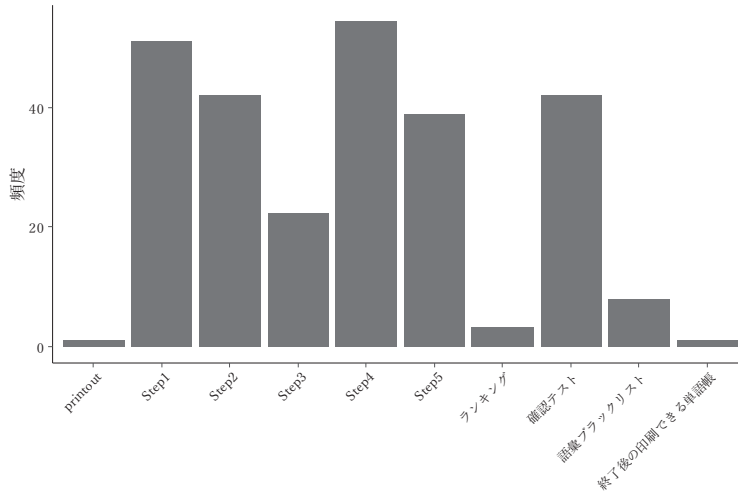


図6 役立った・気に入ったと思うステップや機能

次に、「Q3:【英単語コース】で役に立った、気に入ったと思うステップや機能があれば、チェックを入れてください」という質問項目は複数回答可となっており、図6に示す。最も選ばれたものは、小テストで使用したStep4で、Step1がそれに続いた。Step2, Step5, 確認テストもほぼ同等の結果となった。Step3のサウンドマッチと答えた人数はStep4と答えた人数の半数以下という結果となった。語彙ブラックリストや、印刷のための例文一覧を選んだ参加者もいた。「ランキング」とは、Step2とStep5の後に表示される正解不正解の結果一覧のことである。本アンケートでは、使用した教材の良い点、悪い点についての自由記述の質問項目も設けており、その中の回答を参考に図6の結果の考察をする。

まずはじめに、「Q4: この学習教材で良かった点をあげてください」という質問である。それぞれの回答を内容別にカテゴリ分けし、回答の多かったものから順番に表2に示す。

表2 この学習教材で良かった点に関する自由記述例(1)

内容別カテゴリ	人数	自由記述例
繰り返し	20人	<ul style="list-style-type: none"> 単語を繰り返すことで定着しやすい点。 いろんな方法で単語を覚えられること。 5ステップの中で確実に覚えられた。 流れに沿ってやっていたらいつの間にか覚えていた。 同じ単語を穴埋めや聞き取りなど様々な出題のされ方をしていて暗記しやすい。
語彙力強化	16人	<ul style="list-style-type: none"> わからない単語が減った。 多くの新しい単語を知ることができた。 TOEIC専用の単語が学べたこと。 後半の方に重要そうだけど知らなかった単語があった点。 普段自主的には英単語の勉強をしないのでよかった。

表2 この学習教材で良かった点に関する自由記述例（2）

内容別カテゴリ	人数	自由記述例
オンライン	12人	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマホで勉強できる点。 ・ ペンを握らずにできたのでよかった。 ・ いつでもできるところ。 ・ ゲーム感覚でできるところ。
音声	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声が聞けるところ。 ・ 単語を発音とともに確認することができたところ。 ・ 音声付きで単語を覚えられたのがよかった。
内容	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・ フラッシュ英単語的なやつ。 ・ ビジネス英語が覚えられる点。 ・ クイズ形式なのでやりやすかった。 ・ 単語の使い方まで勉強できる点。 ・ 実際の文に単語を当てはめる問題は実践的よかった。 ・ ブラックボックス機能。
量	4人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1セクションが8単語でちょうど良い内容だった。

表3は「Q5: この学習教材で悪かった点・改善すべき点をあげてください」という質問への自由記述のまとめである。

表3 この教材で悪かった点・改善すべき点に関する自由記述

内容別カテゴリ	人数	自由記述例
繰り返し	12人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返しが多すぎる。 ・ ステップ1をオートではなくクリックで先に進めるようにしてほしい。 ・ すでに定着している単語を何度も確認する作業は正直面倒だった。 ・ ステップ5あたりでは単語を覚えていたので少しくどく感じた。
機能・内容	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラックリスト以外にも自分の覚えておきたい単語リストを作れるようにしてほしい。 ・ 利用している人が平均して間違いやすい問題を提示すべきだと思った。 ・ 1つの単語につき、1つの意味しか提示していなかった点。 ・ 綴りも学べるようにしてほしい。
順番	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・ Stepを順番通りにしかできないところ。 ・ 出題の順番が変わらない部分がある。 ・ 順番通りに覚えてしまう。
オンライン	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反応が遅い。 ・ たまにログインや次のコースに移行する際、時間がかかることがある。 ・ 音が出ないことがあった ・ リスニングが大変だった。
その他	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一度クリアしたコース分の印刷をいつでもできるようにしてほしい、など

表2、表3を見ると、この教材の特徴である繰り返し練習できる形式や、オンライン教材であるという点が、良い点と改善点の両方に挙げられていることがわかる。良い点として最も多かった回答は5つのステップを終えるまでに様々な形式で複数回同じ単語に触れることで覚えやすいという意見であった。単語と音声と一緒に確認できる点や、空所補充問題も良い点として挙げられた。一方、繰り返しが多すぎるといった意見や、定着している単語を何度も確認するのは面倒だったという意見もあった。具体的な意見として「ステップ1をオートではなくクリックで先に進めるようにしてほしい」という意見が挙げられた。必要に応じて部分的にペースを早めることができれば、学習のペースや習熟度に個人差があっても対応が可能となると考えられる。オンライン教材であることに関しては、手軽にスマートフォンを使ってゲーム感覚でできるといった点が挙げられた。「反応が遅い」、「音が出ないことがあった」などの問題も挙げられたが、これらの問題点はネット環境の良い場所で取り組んだり、媒体を変えるなどの対応である程度解決できるため、授業内で助言する必要がある。

その他の改善点に関しては、「一度クリアしたコースの印刷をいつでもできるようにしてほしい」といった意見があった。1から5のステップを終えるとStep5の答えの画面に「PRINT OUT」ボタンが現れ、今回の小テストで使用したStep4の空所補充問題の例文一覧が印刷できるようになるが、一度閉じてしまうと、再度Step5を終えないと「PRINT OUT」ボタンが出ないため、このような意見が出たのだと考えられる。

図6の役立った・気に入った機能についての質問でStep3の「サウンドマッチ」と答えた人数が少なかったことに言及した。人数が最も多かったのがStep4の「1文1空所穴埋め問題」であったことから、本実践で行った小テストは発音に関わる問題を扱っておらず、Step4の例文を使用したものが影響したと考えられる。また、自由回答を見ると、少数ではあるが、「音が出ないことがあった」、「リスニングが大変だった」などのような回答があることから、音を出してはいけない環境で勉強している場合にはイヤホンが必要なことや、ネット環境が悪い時にStep3の音声流れないといったことがあったのだろうと考えられる。一方、音声と単語を結びつけて学習できたことが良かったという回答も多数挙げられた。

表3の「機能・内容」カテゴリの自由記述例にあるように、「ブラックリスト以外にも自分の単語リストを作れるようにしてほしい」、「綴りも学べるようにしてほしい」、「利用している人が間違いやすい問題を提示すべき」といった新たな機能への提案もあった。

これらの意見から、教材そのものへの評価に加え、どのような小テストが課せられたのかという点も教材の評価に関わっていることがわかった。

4.2 小テストに関する質問

次に、授業内で行った小テストに関するアンケートについて報告する。図7は、それぞれの質問項目に対する参加者の回答結果を選択肢ごとに%で表したものである。1から5までの5段階から1つ選択する形式となっている。それぞれの数値の意味は、以下で詳述する。質問項目は以下の3つである。

Q10: 単語テストは単語力を高めるのに役立ったと思いますか。

Q11: 単語テストの毎回の出題範囲(4ユニットで32単語)はどうでしたか。

Q12: 単語テストの毎回の出題数(12問)はどうでしたか。

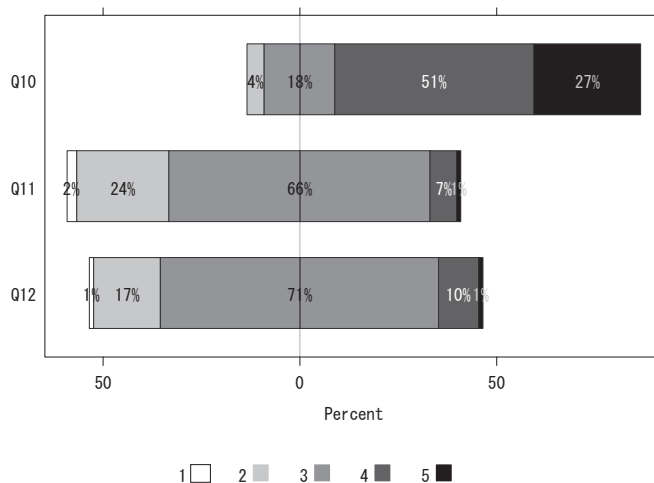


図7 単語テストに関するアンケート結果

Q10 に関しては、「4. 役立った」が51%、「5. とても役立った」が27%となり、78%の参加者が単語テストが単語力を高めるのに役立ったと回答した。「3. どちらともいえない」が18%、「1. 全く役に立たなかった」が4%という結果となった。Q11の単語テストの毎回の範囲(4ユニットで32単語)に対する回答は、「3. ちょうどいい」が66%で最も多く、「2. やや多い」24%、「4. やや少ない」7%、「2. 多すぎる」2%、「5. 少ない」1%となった。Q12の単語テストの出題数(12問)に関しては、「3. ちょうどいい」71%、「2. やや多い」17%、「4. やや少ない」10%、「1. 多すぎる」「5. 少ない」共に1%となった。範囲と出題数は「ちょうどいい」と答えた学生が最も多く、「やや多い」という回答がそれに続いたことから、適切な量だったと考えられる。

小テストに関しても、教材と同様に良い点および改善すべき点に関する自由記述のアンケートを行った。以下の表4は、「Q13: 小テストの良かった点があれば具体的に挙げてください」という質問への回答例をまとめたものである。それぞれの回答を内容別にカテゴリ分けし、多かったものから順番に示してある。

表4 小テストの良かった点に関する自由回答の例

内容別カテゴリ	人数	自由解答例
形式	15人	<ul style="list-style-type: none"> 活用の仕方も気にするようになるところ。 文で出題されていたこと。 単語を選択肢から選ぶのではなく、記述式なのが良かった。 訳が書いてあってやりやすい。 綴りの確認になる。
学習習慣	10人	<ul style="list-style-type: none"> 学習頻度は維持できた。 毎回の授業で行った点。 テストがあることによって短期目標ができ、勉強にメリハリがついた。 こういう機会があるとやはり覚えやすい。
語彙力強化	10人	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力を上げることができた。 受験時の覚えていた単語の他の意味が知れた。 実用的な単語を知れた。 TOEICで出やすい単語を効率よく勉強することができた。
量・レベル	3人	<ul style="list-style-type: none"> 問題数がちょうど良かった。 ちょうどいい難易度で勉強する気になった。

以下の表5は、「Q14: 小テストについて改善すべき点があれば具体的に挙げてください」という質問に対する関する自由記述のまとめである。

表5 小テストの改善すべき点に関する自由回答の例

内容別カテゴリ	人数	自由解答例
形式	6人	<ul style="list-style-type: none"> 文の穴埋めではなく単語だけにしてほしい。 単語テストに出ていないが、同じ文字から始まる同じ意味のものを正解にしてほしい。 複数形などの採点の厳しさがあった。
頻度	4人	<ul style="list-style-type: none"> 1週間に2回のペースが少ししんどかった。 週1にしてほしい。
量・レベル	2人	<ul style="list-style-type: none"> 量を減らしてほしい。
その他	1人	<ul style="list-style-type: none"> 回答を返却してほしい。

小テストの良かった点として、実際に例文の空所に書くという形式に関して、「活用の仕方も意識するようになった」という意見や、「綴りの確認になった」といった意見が15人から挙げられた。それに対して、「穴埋めではなく単語にしてほしい」、「複数形などの採点の厳しさがあった」、「同じ文字から始まる同じ意味のものを正解にしてほしい」といった意見が6人から挙げられた。本実践では範囲を指定していることや、語彙力を強化することが目的のため、教材の中に出てきたものを覚えて書けるようにするようにと初回に指示しているが、小テストの目的を明確に繰り返し説明することが必要であることがわかった。その他の良かった点としては、小テストがあることにより学習する習慣がついたという意見が10人から挙げられた。このことから、小テストがペースメーカーとして機能したと考えられる。語彙力がついたという意見も10人から挙げら

れた。その他の意見としては、今回は授業時間の問題で参加者が相互採点をして点数を確認するにとどめ、回答を返却することはしなかったことから、回答を返却してほしいという意見も挙げられた。

5. まとめと改善点

オンライン単語学習教材を授業外で使う際には、その教材に関わる単語テストを授業内で行い、ペースメーカーとして機能させることで、各タームを通して継続的に単語学習に取り組む手助けができることがわかった。今回行った小テストは選択式ではなく文の中に単語を書く形式にしたことから、1回のテストの平均的な準備時間として約20分のオンラインでの学習時間（1ユニット平均4.5分×4ユニット）に加え、その後つづりを正しく書けるようにするための練習時間も確保できたと考える。ただし、祝日などによるイレギュラーによって、アクセス数が低下する傾向があったことから、継続して学習ができるよう事前に支援する必要があることがわかった。

オンライン教材に対する意見に関しては、小テストの形式が、学生がどのようにオンライン教材を使い、どの機能が役立つと考えるかに影響を与えることがわかった。また、教材の改善点として、習熟度や教材に取り組むペースなどの個人差への対応が挙げられる。Step 1のフラッシュカードなどの教材の一部のペースが調節できると様々な学生に対応できる可能性がある。教員側の改善点としては、オンライン教材の特徴をより詳細に説明し、音が出ない、反応が遅いなどのトラブルがあった場合にもうまく対応できるような対策を事前に示しておくことで、学生が安心して学習に取り組めることができると考える。

小テストに関しては、レベルも出題量も今回の参加者に適切であったと思われるが、今後は学生の意欲を高めるためにも、小テストの形式の目的を明確に、繰り返し説明することが必要である。

参考文献

森田光宏・高橋有加 (in press). オンライン語彙学習に対する異なる学習指示の効果.

Nation, I. S. P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

Webb, S., & Nation, I. S. P. (2017). *How vocabulary is learned*. Oxford, UK: Oxford University Press.

アルク (2019). 「ALC NetAcademy NEXT 英単語パワーアップコース TOEIC® テスト編」.
<https://sd2.alckouza.jp/e-learning/v-toEIC/index.html> (閲覧日：2019年11月30日)

ABSTRACT

A Report on Facilitating Online English Vocabulary Learning with a Quiz

Yuka TAKAHASHI

Institute for Foreign Language Research and Education

Hiroshima University

It is important for language teachers to encourage students to improve their vocabulary outside of class because class time is limited. One way to facilitate vocabulary learning outside of class is online vocabulary learning courses. This paper reports an attempt to facilitate online vocabulary learning with vocabulary quizzes in class, mainly focusing on the results of questionnaires about the online vocabulary material presented and the vocabulary quiz used.

The participants were 93 first-year students enrolled in compulsory English reading classes at Hiroshima University. They were instructed to use online vocabulary learning materials outside of class to prepare for vocabulary quizzes conducted at the beginning of each class, such that students were to finish four units and learn 32 words before each class. The quiz consisted of 12 randomly selected words and required students to correctly write the target word filling a gap in a sentence. Overall, there were 13 quizzes per term, and 416 words from 52 units were learned.

Students' learning logs showed that most of them accessed a unit once and spent approximately 4 to 5 minutes per unit. They scored 9–10 on average out of 12 points for the quizzes. The survey on the online course showed that most of the students found it useful. Moreover, the majority of students found the quizzes useful and the number of target words appropriate. The free description included both positive and negative comments about the repetitive construction of the online material. For the quiz, there were some positive comments about the format and study habit formation. Overall, the survey suggested that the online material helped students learn vocabulary and that the in-class quiz served as a good pacemaker. The educational implications and improvements for future practice are discussed.